

第六期長期策定委員会 傍聴者アンケート
第12回実施分（平成31年4月26日開催） 自由記載欄
【傍聴者 9名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。 ※傍聴者4名記載

<ul style="list-style-type: none"> ・今後、シビックプライドの形成というものを目指すのであれば、長期計画策定委員会を含む行政の場に人間科学や社会心理学等の専門家を参加させることも必要なのかもしれないと考えます。 ・また、その中で若年層へのイメージ戦略を考えていくなれば、若年層を最も理解している者、つまり若年層自身が行政にたずさわることができるような制度は良案であると、若年層の一人として感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・“緑の憲章”が武蔵野市の基本にある、と思っていたのに、市民ワークショップでのスローガンに“緑”がほとんど入っていなかった。なぜかを考えたい。“緑”は確実に減っている。それと関連して、中村委員意見として、将来の“財政比率”を守るより、今やるべき事(例えば)遊休市有地の緑化、公園化を図ることが重要、とあって、印象に残った。 ・委員長の発言。この計画は「誰のためのもの？(誰が読むの?)」も印象に残った。
<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジする人を応援する。 ・変化することをおそれない。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校改革の予算を1校あたりいくらぐらいで見ているのか、それが基金にどの程度影響するのか、わかりづらいです。また築60年で必ず建て替えが必要なのか、どういうスケジュールなのか…。長寿命化を考える余地があるのか。 ・私も市職員を増やすことは賛成ですが、最後の長期財政シュミレーションを見ると、何も知らない市民は不安になる気がします。シュミレーションパターンがいくつか欲しいです。 ・今後、例えば、計画案が出来たら、希望する市民団体と策定委員会との意見交換会は可能でしょうか。 ・武蔵野市の就学援助や高校入学準備金は誇れるものです。 ・質の高い武蔵野市の福祉、教育、住民サービスはもっと売りにしても良いと思います。 ・武蔵野赤十字病院内にある「いとすぎ学級」(特別支援学級)もインクルーシブ教育の一つとして打ち出してもいいのかなと思います。市が赤十字病院と協定するなら、教育でも今やっていることの拡充があればと思いました。 ・「平和」が書き込まれていて良かったです。 ・「これまでの実績と評価」がコンパクトにまとまっていて良かったです。 ・長野県飯田市の話は教育の分野でも聞いています。先行事例として、ぜひ職員の方にも興味をもっていただけると嬉しいです。 ・策定委員の皆様、職員の皆様、本当にありがとうございます。
<ul style="list-style-type: none"> ・各委員が多様な観点から意見を提示しておられたので、それぞれ印象的でした。

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。 ※傍聴者5名記載

<p>・難しいお願いなのかもしれませんが、傍聴席に机が欲しいです。</p>
<p>・“住みたいまち”より“住み続けたいまち”、更に言うなら“住みつぐまち”(もっとよりよくして)ではないだろうか。</p>
<p>・市民の声、特に子供たちの声をつぶさないような市になっていくよう願います。そういう声があった時に否定せず、意見を聞き、話し合える関係が作れる市になるような子育て期、学童期、成人期、高齢期が送れる市計画になりますように、計画とスローガンに表してください。よろしくお願いします。</p>
<p>・前回、討議要綱が出た時に思ったことですが、市報本体にも簡単に、概要、意見交換会日程があると良いです。特集号を読むというのは、よほど意識がないとどりつかなくなったりします。(前回地域の配布の方の都合もあるのでしょうが、たまたま別々に配布されていたので、よけい思いました) あらゆる場面で知らせていこうご検討いただければと思います。</p>
<p>・インクルーシブ教育は5長調でどれだけ成果があり、課題が残っているのか(課題が多いように耳にします)数字も含めてもう少し丁寧な検討が必要だと思います。</p>
<p>・子どもの貧困対策は教育支援センターなのか、全ての子どもの居場所づくり、全ての親子へのトータルケア、学習支援が重要だと思います。</p>
<p>・「英語を使いこなす基礎を養うための教育」は今後10年を見た時には英語だけでいいのでしょうか? 「多様な」と思うと武蔵野市では多言語があってもいいかと思います。</p>
<p>・18才までの医療費無償化は子どもの貧困対策としても豊かに健やかに育つためにも大事です。</p>
<p>・(3)文化・市民生活について</p>
<p>○ 34 頁まえがきの4行目:「多様に取り組みされてきたコミュニティ活動が」を「多様に取り組みされてきたコミュニティ活動・市民活動が」とする。 【理由】コミュニティについてはコミュニティ構想以来、武蔵野市の中心的な政策ですが、市民活動についても「武蔵野市市民活動促進基本計画」があり政策の柱になっています(むしろ、計画に関しては、この市民活動の計画にコミュニティが包含されています)。</p>
<p>○ 37 頁基本施策4のタイトル:「コミュニティの活性化」を「コミュニティと市民活動の活性化」にする。 【理由】前述と同様、市民活動の計画があるのにタイトルにならないのはおかしいと思います。とくに、第五期長期計画・調整計画では、「地域社会と市民活動の活性化」になっており、このままだと武蔵野市は市民活動の促進を減退させるということになります。松本市長の市政方針でも「市民参加」を重視しており、そのためには市民活動の活性化が必須の条件ではないでしょうか。</p>
<p>○ 37 頁基本施策4の3行目:「市民が自主的に行う活動や」を「市民が自主的に行う市民活動や」にする。 【理由】前項と同じです。</p>
<p>○ 38 頁(2)市民活動支援策の検討のタイトル:「支援」ではなく「促進」にする。 【理由】前述のように市民活動の計画の名称は「武蔵野市市民活動促進基本計画」であり、担当課も「市民活動推進課」です。そのため、このタイトルは「支援」ではなく、「促進」が妥当ではないでしょうか。あるいは課の役割をふまえるなら「推進」でしょうか。</p>
<p>○ 38 頁(2)市民活動支援策の検討の4行目:「支援策」を「促進策」にする。 【理由】前項と同じです。</p>
<p>○ 39 頁基本施策6の4行目:「すすめ「参加と学び」の循環」を「すすめ、それがコミュニティ活動・市民活動への参加ともつながり、「参加と学び」の循環」にする。 【理由】まずは、「参加と学び」の循環を入れて頂き、感謝します。しかし、これだけだと何への参加なのか、わかりにくいので説明が必要と考え、市長の市民参加重視の市政を踏まえて上記のような挿入句を入れるのがよいと考えます。</p>

- 同5行目:「生涯学習と学校教育の」を「社会教育と学校教育の」にする。
【理由】生涯学習とは、人の生涯にわたる学習を意味する言葉であり、学校教育における学びも含まれます。これは、文部科学省も中教審答申^(注1)の中で述べていることです。そのため、生涯学習と学校教育の連携という表現は語彙矛盾です。したがって、この部分の趣旨を汲めば「社会教育と学校教育」^(注2)が妥当です。ただし、それで委員会の合意を得られなければ、「市民の生涯学習活動と学校教育」あるいは「市民の生涯学習と学校教育」なら、何とか意味は通じると思います。「市民の」にすれば学校外での活動を意味するように受け止めることができるためです。なお、「活動」を入れたほうが動きのある印象があり、連携というダイナミックな関係に相応しいと思います。とにかく「生涯学習と学校教育」だけは間違っています。
 - (注1) 中央教育審議会「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について ～知の循環型社会の構築を目指して～ (答 申)」37 頁。
 - (注2) 社会教育とは、狭い意味での社会教育行政(生涯学習スポーツ課)で行われるものだけでなく、学校教育以外の主として青少年と成人に対して行われる組織的な教育(体育、レクリエーションも含む)の全体を指します(社会教育法第2条)ので、ここでは、学校教育の連携先は社会教育が妥当です。
- 同(1)生涯のライフステージを通じた学習活動の充実の3行目:「また、ライフスタイルに」を「また、各人の(あるいは多様な)ライフスタイルに」にする。
【理由】ライフスタイルに適したという表現だと、意味が通じません。ライフスタイルというのは、生活様式や価値観など個人個人の生活や行動を特徴づける傾向のようなものなので、「どのようなライフスタイルなのか」がわかるように表現する必要があります。そこで、各人のとか、個人個人のとか、市民一人ひとりのとか、多様なという挿入句が必要です。
- 同4行目:「学び場」を「学びの場」にする。
【理由】「学び場」という用語は一般的でないように思います。
- 同4行目:「誰もが学ぶことができる環境」を「武蔵野プレイス、武蔵野ふるさと歴史館、武蔵野市民会館などの生涯学習の拠点の充実を含め、だれもが学ぶことができる環境」にする。
【理由】たんに環境といっても抽象的でわかりにくいこと、第五期長期計画・調整計画では37頁に上記3施設が明示されていることから、このようにするのが妥当と考えます。

(4) 緑・環境について

- 42頁基本施策2の1行目:「市民生活等の影響」を「市民生活等への影響」にする。
【理由】原文は誤植だと思います。

(※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。)